

Yu Ping 于平(ユープン)氏 OB

PROFILE

1962年、中国上海市長寧区に生まれる。上海市内の高校を卒業後、安徽省にある合肥工業大学を経て、華中科技大学の修士課程を修了。その後6年間は上海大学で教鞭をとり、1993年9月、博士号取得のため来日。1年間は福井大学で日本語を学び、1994年10月からは岐阜大学大学院に研究者として在籍し、1995年4月から博士課程がスタート。1998年に博士号(工学博士)を取得後、岐阜市内にあるシステム開発・販売会社に就職。2002年に上海へ帰郷すると同時に起業し(上海華瀛軟件有限公司)、現在に至る。2005年10月からは岐阜大学中国同窓会事務局を務め、中国人学生・研究者との交流促進に尽力している。



岐阜大学大学院で博士号を取得した 中国人留学生から、上海で国際的に活躍するIT企業の社長へ。 5月にスタートした岐阜大学上海オフィスでは、岐阜大学と 中国人学生・研究者との交流促進にも力を注ぐ。

岐阜大学は、本学大学院の博士課程を修了したOBで、岐阜大学中国同窓会事務局を務めている于平(ユープン)氏と「岐阜大学上海オフィス」の覚書を本年5月11日に中国上海市で締結しました。この覚書は、上海に事務所を設置し、中国人学生・研究者との交流の促進を目的としています。今回、創立60周年記念行事にあたり、およそ1年半ぶりに来日・来学された于平氏にお話を伺いました。

岐阜は第二の故郷であり、 岐阜大学が一番の母校。

——日本へ留学し、博士号取得のために岐阜大学大学院を選ばれた理由を教えてください。

上海大学で教員をしていたころ、教員は博士号を取得するというのが通例でしたが、当時は中国国内で博士号を取得できる大学に限られていたに加え、グローバルセンスを身に付けるという目的もあって多くの人が海外へ留学していました。私の場合は、上海大学に客員教授として招かれていた福井県の山本先生に日本への留学を強く勧められたのがきっかけで、1993年9月に来日し、10月から1年間、福井大学教育学部で日本語の勉強をし

ました。まずは日本語を理解できるようにならないといけませんからね。

その一方で、日本の大学をいろいろ調べていました。中国で、機械工学から始まりCADを中心にコンピュータシステム関連の研究を重ねてきた私が、自分の研究内容となるべく合致する研究室で博士号取得をめざすことを条件に探していた結果、たどり着いたのが岐阜大学の武藤先生。機械工学における油圧制御システムを研究されていた先生の話を知って「こしかかない!」と確信し、先生からもOKが出て、1994年10月から岐阜大学大学院に在籍しました。半年間は研究者として、そして1995年4月から博士課程がスタートしたという経緯です。

——岐阜大学で過ごされた3年間で、特に印象に残っていることは何ですか？

大学関係の方々はもちろん、地域のみなさんには大変お世話になりました。というのも、ガソリンスタンド、焼肉店、ラーメン店などでのアルバイトを通じていろいろな経験ができましたし、そういった場所で働けたことは何よりの日本の社会勉強になり、おかげで日本語も上達したと思います。

さらに、博士課程3年目のときには、岐阜城ロータリークラブさんから奨学金をいただきました。毎月の会合に出席してロータリークラブ会員の方々と話をさせていただくうちに、私の心の中で変化が起きました。会員のみなさんはそれぞれ会社を

経営されている社長さんたちで、いろいろな形で社会貢献をされています。博士号を取得したら中国に帰って再び大学の教員をやる計画でしたが、「システムの開発・提供を通して社会に貢献したい!そして将来は自分の会社をつくりたい!」という気持ちに変わりました。

大学院では、「油圧システムについてのファジーとニューロの制御」というテーマで研究論文に取り組んでいましたが、武藤先生が非常に丁寧に、何度も論文に目を通してくださったことが印象的でした。とても感謝していますし、岐阜大学大学院で博士号を取得できたことは、その後の私の人生に大きくプラスになっていることは間違いありません。

岐阜は私にとって第二の故郷であり、私にとっての一番の母校とは、中国の高校でも大学でもなく、まさに岐阜大学なのです。

岐阜大学上海オフィスで母校への恩返しを。

——博士号を取得後すぐに中国へ帰らず、なぜ岐阜市内の企業に就職されたのですか?

中国へ帰って起業するにも、大学という枠の中でしか生きてこなかった当時の私には実務経験がなく、「このまま中国でシステム関連の仕事を始めても100%失敗する」と実感したからです。まずはビジネスの基本を日本でしっかり学ぶことが将来のためになると判断し、業務用専用パッケージソフトなどを中心にシステム開発・販売を手がける株式会社テクノアに就職しました。

会社では建築CADソフトの中国版の開発に携わり、それを販売するために中国へ出張したりする中で、入社3年目には管理職として経営

面にも関わることができました。システムやソフトウェアを通じたビジネスのやり方・経営手法について、実践の中で身につけられたことは現在に大いに活かされています。

そして2002年に中国に戻り、故郷の上海で起業しました。上海にある日系企業にITサービスを提供するビジネスを展開し、7年の歳月が経ちました。

——社長として中国でご活躍の一方、この5月からは岐阜大学上海オフィスがスタートしましたね。

2005年10月、私が発起人となって『岐阜大学中国同窓会』を創設し、それから毎年、学長・副学長も招待して交流会を開催してきました。その活動が今回の『岐阜大学上海オフィス』に発展したわけです。「母校に貢献したい、恩返しをしたい」と常々思っていましたから、この話をいただいた時には非常に興奮しましたね。

海外留学先として岐阜大学を選ぶ学生がもっとも増えるよう、中国の各大学や高校に情報を提供しながらアピールし、留学生をサポートするのが主な目的です。岐阜は生活環境が良いですし、岐阜大学には有名な先生方も多く、私自身がそうだったように「条件が合うならば迷わず行ってほしい」と熱いメッセージを送りたいと思っています。まだ始まったばかりですが、自分の会社同様に岐阜大学上海オフィスを愛し、頑張る決意です。

中国と日本の掛け橋として働くことが私の信条。

——最後に、今後の目標についてお聞かせください。

私が中国で会社をつくり、今こうして人生を送っている根源には、生まれ故郷の上海は言うまでもなく、さまざまな出会いと気持ちの変化をもたらしてくれた日本が存在し、その中心に岐阜大学があるからです。だからこそ、中国と日本、そして岐阜大学に恩返しをするため、中国と日本との間により良い友好交流と経済協力をもたらし掛け橋として働くことが私の信条。私が経営する会社『上海華瀛軟件有限公司』(英名:Huaying Software Incorporated Shanghai)の『華』は中国を、『瀛』は日本を、『軟件』はソフトウェアを意味しており、上海でソフトウェアを通じて中国と日本のために働く意志を明確に表明しています。

そんな私にとって、岐阜大学上海オフィスを任せられたのはとても幸せなことであり、中国と日本の関係強化に寄与する若者たちを育成するため、今後も全力を注いでいくつもりです。

——本日は創立60周年記念行事*の準備でお忙しいところ、本当にありがとうございました。

こちらこそ。今度は上海に、ぜひいらしてくださいね。

*于平氏は、岐阜大学創立60周年記念行事のひとつ「第2回国際交流Convivial Meeting」の中で、「中国の現状と高等教育のグローバル化」と題して講演されました。



「よく利用しました」という図書館をバックに